

第12期事業計画

2015年10月1日から2016年9月30日まで

特定非営利活動法人ニンジン

I. 事業実施の方針

モンゴル障がい児療育支援事業については、障がい児実態調査の報告会を2015年春に現地で行い、6月には障がい児保護者の会のリーダーを招へいし、日本の障がい児療育に関わる仕組み、運動の歴史などの研修を行った。その後、同会では、政府への提言、自主保育グループの立ち上げ、子ども発達センター（療育センター）の動きなどが活発化しており、こうした動きをさらに支援していく。

今年度は、2016年4月～5月に専門家が訪問し、昨年の招へい事業の成果、新たな課題を確認し、また、地方の障がい児の状況を把握する。

現在、昨年来準備を進めていたJICA草の根技術協力事業に申請している。これが決定すれば、ウランバートルの自主保育グループへの療育支援を中心に、2016年夏頃から3年間かけて、療育技術を移転し、モンゴル国の中に普及していく体制づくりをめざす予定である。

タイについては、北タイのNGOルデラ（ラフ農村開発）と協力し、北タイへのスタディーツアー、高校生のスタディーツアーコーディネートを継続実施する。

II. 事業計画

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障がい児療育支援

ア. 専門家訪問団

実施時期：(予定) 2016年4月29日(水)～5月8日(日) 10日間

訪問団メンバー：医師、理学療法士、保健師、車いす技術者等、事務局

予定地域：ウランバートル市内、障がい児保護者の会、西部地方

内容：保護者の会の活動状況把握、西部地方の保護者の会支部、子ども発達センターの状況把握、要請による診察相談、車いすの調整配布、車いすセミナー他

イ. 車いす支援

心身障害児総合医療療育センター、株式会社ゼット本社他の協力をいただき、モンゴルで専門技術者が採寸した希望者を対象に、国内でサイズの合う車いすを収集し、モンゴルへ送り、現地でフィッティングして渡す。あわせて、車いすのソフト（クッション、ベルト等の付属品）を現地で製作できるよう技術支援を行う。車いすのモンゴルへの輸送方法が課題である。

ウ. JICA 草の根技術協力事業による療育支援

現地に療育の理念及び技術を根付かせるために、3年間にわたり JICA 草の根技術協力事業を実施する。4名の医療・教育専門家および経理担当者からなるプロジェクトチームで取り組む。

メンバー：・梅村浄	小児科医、プロジェクト・リーダー
・吉濱信恒	PT、教育指導
・諸石真理子	PT
・野口陽子	教育指導
・鈴木茂	経理

期間：2016年5月～2019年4月

目的：障がい児保護者の会傘下の自主保育グループ「ゲゲーレン」および「サインナイズ」が障がい児療育のモデルケースとなることを目指すと同時に、両グループを実習のフィールドとして、保護者への療育技術指導、PTや家庭医等の療育指導者の育成をはかる。

プログラム：3年間に8クールの指導を日本からの専門家及び現地に在住する専門家で実施する。

1. 療育活動（1クール中の6日間）2団体を対象。
2. 療育指導者専門セミナー 1クールに1日
3. 家庭医向け「療育に関するセミナー」 1クールに1日

総事業費：1,000万円(3年間)

エ. 事業報告会の開催

モンゴル支援事業への理解者、支援者を増やすことを目的として、報告会を開き、活動の紹介・報告をする。あわせてモンゴル音楽を楽しんでいただく。

実施日時：2016年7月23日(土) 19:00～21:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター（東京・新宿区）

オ. 支援事業の運営

上記の支援事業を運営するために、年間を通して事務局、現地協力者と連絡を取り、円滑な運営を行う。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル交流事業

『第10回モンゴル交流ツアー……車いすを届ける旅……』の実施

モンゴルの障がい児に車いすを届けて交流し、併せてモンゴルの大自然に触れるツアーを実施する。

実施時期：2016年8月1日(月)～8月8日(月) (予定) 7泊8日

募集人数：10人～15人

訪問先：ウランバートル、障がい児保護者の会、他

(2) タイ交流事業

ア. 『北タイ・焼畑の村スタディツアー』の実施

北タイをベースにラフ族の人びとを主として支援してきた NGO ルデラの森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みに学び、生活文化にふれるスタディツアーを実施する。昨年支援してできた水道施設を確認する。

実施時期：2016年3月7日(月)～13日(日) (予定) 6泊7日

募集人数：10人程度

訪問先：チェンライ県メーソアイ郡ホイナムクン地区ローチョ村

イ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行う。

実施時期：2016年7月下旬～10日間程度

受入人数：順天高校より、生徒及び引率教員20人程度

内容：＜チェンライ＞山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での体験、子ども寮での交流、＜パヤオ＞学校訪問、ホームステイ
＜チェンマイ＞HIV/AIDS関連の活動、ストリートチルドレン関連施設などの訪問、視察交流、象乗り

協力者：ダイエー・セイリ氏（チェンライ）、川口泰広氏（チェンマイ）

3. 啓発事業

(1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催

モンゴルから招へい研修で来日中の障がい児保護者の会のメンバーを迎えて、公開セミナーを開き、あわせて交流する。

実施時期：2016年秋

内容：(予定) モンゴルの障がい児の療育の実現に向けて

4. 文化交流事業

(1) モンゴル文化紹介

モンゴル支援事業報告会をもってあてる。

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログ他による情報発信に努める。

(2) ニュースレター、Eメールニュース（「ニンジン・アップデート」）の発行

6. 組織運営

(1) 会議の開催

ア. 通常総会の開催 (年1回)

日 時：2015年11月7日(土)

会 場：中央区女性センターブーケ21研修室

イ. 理事会の開催 (年2回)

ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志からなる運営委員により、事業実施の詳細を決め、実施する。

(2) 財源の確保

組織の安定した財政基盤を築くため、会員の拡大、寄付等財源確保に努める。

(3) 事務局の運営

新たな事務局体制を検討し、事務局業務の分担を進め、事務局機能の充実を図る。インターネットを活用した資金調達に取り組む。

(4) ニンジン・サポーターズ倶楽部

会員資格の有無を問わず、ニンジンの活動をサポートするボランティアを募り、コンサートやイベント出展のスタッフなど、活動への参加を呼びかけ輪を広げる。